



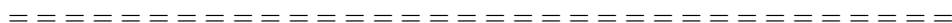
地域日本語支援ニュース こだま 第 337 号

2018.4.26



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。



新年度のご挨拶

公益社団法人 国際日本語普及協会 (AJALT)
理事長 関口 明子

皆様、こんにちは。

日本が1年で1番美しいうすピンクで染まる日々ですが、関東地方は今年があつという間に過ぎてしまいました。皆様の地域ではいかがですか。桜を堪能なさいましたでしょうか。

AJALT は 2017 年 2 月で社団法人設立 40 周年を迎え、2018 年 1 月 19 日に記念祝賀会を最後に冠行事が終了いたしました。ここまで AJALT を支えてくださいました皆様に心から感謝申し上げます。

さて、地域日本語支援ニュース『こだま』をいつもお読みいただきましてありがとうございます。お蔭様で『こだま』は今年度で 16 年目に入りました。少しずつ読者も増え、4 月 13 日現在 1,962 名になっております。

昨年度 (2017 年度) も『『こだま』～ともに生きる』を掲げ、‘ともに生きる’中での喜び、発見、辛さ、悩み、共感等を外国人の立場から、日本人の立場から、いろいろ書いていただきました。ありがとうございました。

今年度も‘ともに生きる’皆様からのご意見、ご提言、ご助言、ご報告等をぜひお寄せいただきたいと存じます。そして今年度の試みとして ‘ともに生きる’中

での具体的なテーマを4つほど掲げることにしました。以下に記します。

1 「わかりやすい日本語」(やさしい日本語)

今、あちこちで「やさしい日本語」という活動を見聞きなさっていると思います。在留外国人の言語背景が多様化している現在、多言語翻訳には限界があります。全体に在留人数の少ない言語はいつも多言語翻訳から取り残されています。視点を変えて私たち日本語母語話者が外国の方々にとって「わかりやすい日本語」を使用する意識をもつことが重要です。もともと日本にいらっしゃる外国の方々には日本語がわかりたい、日本語でコミュニケーションがしたいと思っているのではないのでしょうか。「わかりやすい日本語」は日本語を母語としない外国の方々の心にやさしく響くと思います。「わかりやすい日本語」に向けてみんなで一緒に考え、行動していきましょう。

2 災害・防災

地震、火事、台風、津波等々の災害に備えることは命を守ることです。日本語を母語としない外国の方々にとってどれほど大変かは過去の例をみるまでもないと思います。阪神淡路、東日本、熊本等の災害を忘れることなく、今もなお続く被災者のご苦労を想い、今後の教訓としてこれは毎年必ず載せるテーマとしました。

3 日本で育つ

戦後日本のインドシナ難民受け入れをスタートに日系人等の定住者としての受け入れは40年になろうとしています。その中で日本で生まれ育った外国にルーツをもつ子どもたちが成長の過程で味わった複雑な思いを、またその家族、友人、そして触れ合ってきた周囲の人々の声を載せたいと思います。

一人でも多くの人々に彼らの存在を、想いを、努力を分かってもらいましょう。

4 その他

社会情勢、日本語教育の状況その他上記以外のことで、外国の方々と‘ともに生きる’上での諸問題等。

今年度も読者の皆様とともに、‘ともに生きる’を考え、一人でも多くの方が日本で生きてよかった、日本に来てよかったと思える社会の実現のために、少しずつでもできることを積み上げていきましょう！
